



はじめに

「洗口液は気休め程度」

「洗口液はバイオフィルムに浸透しないから意味がない」

「わずか30秒程度の洗口で歯周病を予防できるはずがない」

「洗口で歯周ポケット内まで殺菌効果が及ぶはずがない」

「国内で販売されているグルコン酸クロルヘキシジンの濃度は薄く、効果が
がない」

「グルコン酸クロルヘキシジンは着色しやすく、歯面が粗造になればプラ
ークが付着しやすくなって逆効果」

「洗口液の必要性がわかりません。患者さんへの説明に困っています」

など、これらは私が洗口液をテーマに講演した際、いただいた意見です。

これらの意見をおっしゃる先生方は、学術論文もよく読み、向上心に溢
れている方ばかりでした。そのため、洗口液の限界をよくご存知なのだと
思います。しかし、これらの意見は洗口液本来の意義や使用法の誤解から
出ているように思います。

本書は、洗口液の本当の意義をお伝えするために、上記すべての質問を
含む洗口液への疑問について学術的根拠に基づいて解説しています。

また、口臭に悩む患者さんや、ドライマウス症状を訴える患者さんが増
えています。このような患者さんに対し、安易に洗口液や保湿剤を勧める
のは間違いです。なぜなら、口臭もドライマウスも症状名であり、疾患名(病
気)ではないからです。原因を突き止め、病状が改善しなければ、洗口液
は単なる対症療法となり本来の効果が得られません。本書では口臭とドラ
イマウスを大きなテーマの一つと捉え、別の章立てとして、診断から治療
法まで解説しています。

さらに、近年注目を浴びている次亜塩素酸水やオゾン水などの機能水のエビデンスについて知りたいとの要望に応え、V章で解説しました。

口元への関心の高まりから、スーパーやドラッグストアでは、さまざまな口腔ケア用品が販売されています。洗口液はすすいで吐き出す簡単な使用法のため、外出先でも口臭対策やリフレッシュとして手軽に使えることから、年々出荷数が増えています。最近のアンケート調査では、全体の6割の人に洗口液の使用経験があり、3割が洗口液を日常的に使っているという結果が出ています。

歯科医院に受診される患者さんの半数以上に使用経験がある洗口液について、学術的根拠をもって、患者さんに合った洗口液の提案と効果を最大限に引き出す指導に役立てていただきたいという願いを込めて、本書を執筆しました。

本書が、皆様の口腔衛生指導の一助となれば幸いです。

2016年1月
竹中彰治

